

以上の如きものであり従来、従業員側には少からず不満の声があった所去る二月三日、総同盟大阪合同労  
働により全工場に支部確立を見るに至り、それを機会  
に従業員側は決然起つて去る十日、賃銀値上危険作業  
に対する保障解雇退職手當の制定、等を内容とする嘆  
願書をもつて会社側に迫つたが、会社側の一蹴する処  
となり以来、総同盟指導の下に接衝対峙を繰り返して  
小畑氏は人も知る関西産業界さつ々の闘將であり

労働組合法団体保険その他凡ゆる労働立法を眞向から  
排撃し以て資本家陣營の「安全感確保」に日夜奮戦してお  
られる程の御仁だから今回の問題に對しては、相當の對  
策戦術を用意して居られる筈だし、これに對して、吾  
決すべき総同盟にしても昨夏の大機争戦に於て、小畑  
氏に優ちとも劣らぬ木村氏を向ふに廻し苦闘の経験も  
なめて末に今日、殊に最近の産業大資本家の前にはそ  
の産業平和的戦術も往々にして威力を發揮し得ないし  
云ふ事實の認められる今日、果して如何なる態度方針  
を以てこの強敵に當るべきか恐らく総同盟内部に於て  
も論議されてゐる事と思はれるが、その指導方針の如  
何は當に総同盟の問題たるに止らず、吾國労働階級が  
正に攻勢に立ち向はんとしてゐる現在、それは極めて  
重要視するべきであらう。

兎まれ吾々はポイントの従業員が立ち上るに至つ  
た前後の事情及本日迄の経過を次に報告す。